

さぽせん あいかわ

第8号
2011/03/15

あいかわ町民活動サポートセンター

〒254-0401 さいかわ町民活動サポートセンター
運営委員会

住所 さいかわ町民活動サポートセンター

電話 046-205-1323 FAX 046-205-1324

<http://www.aikawa.kanagawa.jp/sapocent/index.html>



開所時のメンバー

「この4年間で振り返って」

平成19年3月に開設したあいかわ町民活動サポートセンターは、早いもので4年が経過しました。この間100の団体に登録いただきました。人口約4万3千人の町でこの団体数は、他市町村に比べると大変多いものです。これは当サポートセンターの誇りとするところです。今後団体間の活動の連携が盛んになるなら、まちづくりに大きな力となり、そして、この連携が、今後行政との協働に繋がっていくことが期待されます。

当サポートセンターの特徴は、平成18年度の「愛づくりスクール」の中で運営方法が検討され、37人のスクールメンバーの12人がスタッフとして参加し、またそれらの人を含めた20人が運営委員（ボランティア）として関わったことです。このスタッフと運営委員の一体感と、運営委員が年間事業の実施を先頭に立って支えたことが、成果をあげる大きな要因になったと思います。

これらの努力により、平成22年度から開所時間を削減したにもかかわらず、過去12ヶ月間における一日当たりの利用者は、14.4人(前年比1.3人増)にもなりました。利用が重なったときは、「会議室が欲しい」という声が聞こえてきました。

しかし、この運営委員重視の運営方法は、新たに参加しようとする人には障壁になっているのかもしれませんが。運営委員をスタッフと切り離して活動範囲を絞り、会議回数も減らして新しい人が参加しやすくなるような方法が今検討されています。新年度から新しい仕組みで、多くの新しい運営委員が誕生することを願っています。

スタッフ、運営委員の皆さんは、自分の所属する活動団

体を複数持ちながら参加しています。また4年間に発見した課題の解決に向けて、自分で新たな団体を設立された人も多くあります。サポートセンターは、今後時間を重ねる毎に活動の輪が広がっていくものと期待しています。

去る2月23日には「中津川を考える」～中津川の自然再生・保全と有効利用について考えよう～をテーマとして懇談会を開催しました。これをきっかけとして、中津川を利用して活動する団体のネットワークを構築し、団体間の連携により中津川の保全と更なる有効利用につなげていきたいと考えています。



運営委員長
諏訪部 勲

2月23日

サポートセンター登録団体懇談会を開催！

テーマ「中津川を考える」

～中津川の自然再生・保全と有効利用について考えよう～

当サポートセンターでは、登録団体の横のつながりを支援してきました。そこで今回は中津川に関わりのある団体13団体をお招きし、発表と懇談を行いました。

町の第5次総合計画で自然との調和や産業・協働などのテーマのなかで中津川関連団体でネットワークが構築できればと考えています。

中津川は石ころと草のジャングル。

でもこれは本当に自然なのだろうか？

砂漠ですら「生態系が貧弱な自然」のうち。

サークル愛川自然観察会 山口勇一

『本当に豊かな自然とは』と考えると、人間が単に放棄した姿は自然ではない。愛川の自然は外来種の繁茂、絶滅危惧種の危機にあり、豊かな自然といっても実は荒廃している。カワラと名のつく植物は1種をのぞいて全て絶滅危

惧種となっているほどの現状がある。

当会は3年前から自然観察会をやってきた。高齢者から幼稚園児まで会員外の参加もあるが、まだまだと思っている。

問題として中津川の林野化が特に昭和40年代から大きく変化し始めた。ニセアカシアが植林したかのごとく一斉に繁茂し、中洲もジャングル化して水が見えない。

川には文化がある。自然への畏敬、水神様、水田開発記念碑、鮎の供養。川への信仰もある。自然から活力を得て、また信仰と畏敬の対象としての中津川を大事にしたい。

中津川に関心があるのは 愛川町民だけではなく相模原市民もだった！

景観の再生を目指して。

中津川倶楽部 和田達夫

川沿いの竹林の景観保全を考え、日本の竹ファンクラブの力も借りて竹林整備に管理の概念を入れ、生え過ぎを防ぐ意味も込めてのタケノコ掘りと草刈を実施し、さまざまな団体が活動しやすい環境整備をしてきた。会員数は減ったが、内容は充実し、これから活動の拡大と連携、コーディネートをやっていききたい。河原への車の乗り入れの禁止協定を作るなどしてきた。

竹林整備、河原でのバーベキューと趣味、遊びと公益を兼ねた活動でやってきたが、マダケの繁茂は日本の竹ファンクラブの力を借りても、とても追いつかないので、竹林整備隊を作りたい。

現在の愛川は哀川。自分は相模原の人間なので、もっと愛川町の人々に中津川を愛して欲しいと常に思っている。

塩川滝から角田大橋の間の仙台下（地名）は相模風土記では仙台堂というお堂があった地区で、もともと明治までは干体下という由緒があるものだった。

砂利採取の前は草競馬をやったり植生管理があったが、今は放棄に近い。人が適度に入って調和するのが自然のあるべき姿で、放棄は自然ではない。

そこでもっと関心を持ってもらって、中津川をさまざまなグループの活動の文化的な拠点にしたい。

田んぼの生きものたちにまなざしを

神奈川・山梨で環境再生運動

あいかわ自然ネットワーク 大木悦子

1999年活動開始。設立直後から自然観察会やトンボ・ゲンジボタル・ヘイケボタルの調査をしてきた。

ホテルばかりを増やすのではなく、様々な生き物がいる自然環境を大事にしたい。車のヘッドライトなどはホテルの生態に影響を与えるので、県外では光の制限を行っているところもある。

捕獲したトンボの数でサンプリングすると、トンボの生態系が変わっている現状がある。

また湧水池の環境再生にも取り組んでいる。アメリカザリガニの影響がみられる。そこで泥上げ・ヨシ刈り・池掘りを実施している。



開花したカワラノギクの鑑賞会を実施。

2007年、町内外、埼玉からも980人が参加。新聞なども活動を紹介。しかし参加者をさらに増やしたい。

NPO法人愛・ふるさと 小倉大典

自分は馬渡橋下流で生まれ育ち、横浜に住んでいるが、年に数回愛川に戻り、ダムができてからの環境激変に関心を持ち、カワラノギク保全活動を開始。2005年NPOとなる。2006年、田代運動公園前の河原、キャンプの行われている上流でカワラノギクの保護活動、草刈などの作業を実施してきた。

中洲がニセアカシアの繁茂でジャングル化していたが、それを建設業協会に協力をいただき、重機で作業路を拓くほか、個人的な応援なども受けて、伐採をして改善した。鮎漁に影響があるとの反対もあったが、話し合いの結果理解してもらった。

春先にカワラノギクの苗を育て植えつけ、6月から9月の4ヶ月は月3回、10数名で草取りなどの活動を実施中。

中津川にかける夢の提案

観光振興に中津川を役立てたい！

NPO法人愛・ふるさと 小倉大典

現在ホテルが減っている。ダムの放水により河川に住む生物の餌となるカワニナが押し流されている可能性がある。そこで「田代水門の調整」と、「放水に影響を受けない『蛇行水路』をつくり、ホテルとカワラノギクを豊かに」「右岸塩川滝からカワラノギク育成地に至る歩道橋をつくって観光資源にしては？」と考えている。難題ではあるが、考えていきたい。

また、「エコツアーの実施」をしたい。以前行ったミニエコツアーでは横浜・大和からの観光客が多かった。観光資源の活用になるのではないかな。

中津川の観光文化で通過交通からの脱却を！

新しい産業としてもっと観光に力を！

NPO法人ユーラシアンクラブ・愛川サライ 大野遼

6年前に八菅山・中津川を目の前にするところに引っ越してきた。

愛川サライは「愛川町をほっとする空間に」と掲げた。時代の要請として、アジア・自然との共生、子供の時代を感じ、歩行者・自転車目線への価値観の転換を提案する。

ダムの完成であいかわ公園・ダムサイトへ年間140万人の観光客があるが、国道412号線をスルーするだけ。かつて中津川流域をたどっていった観光の流れが通過されている。ダムしか栄えない街になってはいけない。

あいかわ公園だけではなく、流域全体を観光の中核にする必要がある。

マイカー利用を前提としたロードサイド街は全国で衰退へつながっている。マイカー乗り入れ規制や、コミュニティバスと連携した電動アシスト自転車のレンタサイクルなどを実施してはと思う。

中津川に木道を作ったり、かつての燃糸工場の水車の復活など、流域を歩いて見える世界は観光資源になりうる。

昭和59年、今から27年前の聞き取り調査で塩川滝の弁天洞窟伝説など、文化環境資源になりうるものがあり、そのクローズアップをしたい。

塩川滝と江ノ島鎌倉弁財天はつながっている。弁財天は水の神様。八菅山もさらに文化観光資源がある。

海老名の国分寺・国分尼寺から大山までの一帯が連携し、奈良時代における相模の国の文化があった。

弁天さまは子育て・音楽の神様。中津川流域音楽祭などにも繋がられるのではないかと。ほかにも東丹沢一帯に豊かな史跡があるので、それを活用したい。

中津川を散策道中心にした 自然観光地帯へ！

街のシンボルとして／生活、生計の場としての中津川
松本貞

中津川の観光客は町外が95%。町民は5%しかない。散策道の整備は小中学生の通学路にも使える。その散策道にライブカメラを設置してみたい。

13の観光拠点による『中津川13次』をつくってはと提案する。高齢者の歩く力に合わせてその散策道の13箇所に拠点を構築したい。(オリジナルの計画図で説明)

実際に何度も歩いて実地で駐車場容量とナンバープレートを見ての流入人口調査・インタビューを実施した。

レインボープラザ付近の河原の調査では、横浜からの若い男女、写真をとってほしいという子供もいた。彼らは年2~3回くると答え、「ただでは申し訳ない。無料ではもったいない」との意見を多数得た。

また塩川滝前から中洲へ川を渡る手段があればと思う。

散策道の整備は観光価値を高め、町の今後の強力な財政基盤にもなりうる。(試算もした)

伐採作業をしている団体も見ていたが、この会でその取り組みがわかった。町と住民の協働で行うと更にいいのではと感じた。

個人的にマラソンの経験もあるので、こういう自然のあるところでのマラソン大会の開催にニーズがあると感じる。

懇談で出た意見

●団体と行政などのあいだの調整を行う地域の協議会などがほしい。

●着実に地域社会も変わっている。意思を持った有志で行うほうがいいが、ボランティアは最後には息切れする。既存のそういった団体との話し合いや協力、ネットワークと広報力の共有が必要。

●愛川町の会員が少ないのが悩み。参加者募集。

●国道412号の鮎のモニュメントに花壇づくりをやっている。

ネットワークとしてこういう会を継続的に町にも応援してもらって協働で続けていけないだろうかと思う。

●外からみると愛川町はいい町なのだが、問題もあるとわかった。

●地域美化をやっているが、国道の花壇が国道開通時にあったのに荒れ果てていたため、その美化をやっている。

30年前から半原に住んでいるが、愛川は自然豊かのはずが、それが市街化した密集地になってしまい、山は放棄されて荒れ放題であると思っていた。意見を共有できた。

●宮ヶ瀬ダム周辺振興財団との連携を模索する方法もあるのでは。

●自然の定義、ホテルの再生、橋を作るといろいろあるが、観光化か住民の居住環境重視かのジレンマになるのでは？

●作業路なので車の乗り入れは禁止している。話しあって工夫すれば自然は守れる。

●中津川が汚いと思っていたが、よくしようとする思いがこれだけあるのがわかってよかった。50年住んでいて、今ハイキングで歩いて改めていいところと思い、史跡の話聞いてますます興味を持った。

●河原の雑木伐採の必要を感じたが、愛ふるさとのように建設業協会との協力による重機活用のノウハウを聞いて、いいなと思った。そこでは町との協働も必要。

●松本さんの壮大な計画を聞いて、私達も最終的な姿はそのようなものかと思いました。

●こういった中津川をテーマにした定期的な会合をひらいていけないか。ぜひ第2回をやりたい。



まとめ

■時間をオーバーするほど活発な発表と意見が交換され、中津川と愛川の自然と文化、そして問題認識の共有ができた。最後に運営委員長がまとめを行なった。

①中津川に関わって活動している団体の交流会は、今後もサポートセンターが継続して主催する。

②更に強い形のネットワークを結成し、行政との協働を目指す必要を感じている方は、中津川のまちづくりネットワーク結成に向けて努力していただきたい。

③中津川に今ある13の河川広場、それをつなぐ散策道の整備(中津川ロード13次)の夢を目指し、今後は行政区との連携も考える。

現在サポセン内に今回の資料として「中津川流域図」と「中津川、その景観と橋の変遷」の写真を掲示中です。ぜひご覧ください。

—お知らせ—

4月から募集します！ あいかわ町民活動応援事業

町民皆さんがまちづくりのさまざまな場面で自主的・自立的に取り組む、公益性の高い活動を応援する「あいかわ町民活動応援事業」(平成23年度分)を4月から募集します。この事業は、町民皆さんが新たに企画・立案し、自ら実施する非営利の公益的な活動に対して、町がその費用を補助(最高30万円)するものです。平成23年度中に新たな事業を実施する団体は、ぜひご応募ください。

※詳しくは、町の広報あいかわ4月1日号をご覧ください。

シリーズ サポセン利用団体探訪

愛川町点訳友の会

●横顔 設立: 昭和57年9月

社会福祉協議会の「点訳講習会」に参加された人達が中心となり立ち上げた会です。本会は点訳等を通し障害者の福祉向上を図ることを目的とし、カレンダー作り等から始まった活動も、現在では、月2回の勉強会を中心に本の点訳、学校教育協力、地域への協力等の活動を実施。また、定期的な点訳基礎講座も開催しており今年も5月開催を予定しました。小さなグループですが、仲間づくりを大切にしたい穏やかなボランティアグループです。

●問い合わせ先 社会福祉協議会 TEL046-285-2111 (内線3793)

●代表 有馬祐子さん

点訳は特殊ではありますが、とてもやりがいのある活動です。

5月に「点訳基礎講座」を開催致しますので一緒に活動しませんか。お問い合わせは愛川町社会福祉協議会まで。点訳ボランティアに興味のある方の参加をお待ちしております。

●探訪感想

1月21日の勉強会に取材のため、お伺いしました。穏やかな空気を感じるその会場で、点字を初めて習っている方や、小説を点訳している方、パソコンを使用して点訳作業をしている方々に初めて接する探訪者の私にとって感動のひとつでした。ただ残念なことは愛川町では、その活動があまり知られていなく、利用されていないということです。5月に開催される「点訳基礎講座」には是非多くの方が参加されることを祈念して席を後にしました。



あいかわ町災害ボランティアネットワーク(A S V N)

●横顔 設立: 平成21年5月

災害、特に地震災害は防げません。しかし、日頃の備えで「減災」は可能です。まず、自分や家族の身は自分で守る。次に隣近所の助け合いの輪を作っておく。このことは、阪神淡路大地震が証明しています。地域の住民同士、町民と行政、近隣市町村で活動をする団体同士、これらが日頃より『顔の見える関係』を作っていくことです。ASVNは防・減災の知識を自ら訓練し、地域に広める活動をしています。

●問い合わせ先 代表 石田安秀さん TEL090-3042-5537

HPアドレス <http://asvn-aikawa.cdx.jp>

●代表の声

災害に関しての自治会・行政などの対応組織においては「担当者の任期」という制限があり、継続性の障害となっています。私たちASVNは、この任期の壁を乗り越え、継続したネットワークづくりを心がけています。身の回りの日常生活の中には、『防・減災に役立つ』知識はイッパイあります。地域での顔の見える関係とこの知識の発掘が、私たちの身をまもるのです。

●探訪感想

消防庁舎で行われた「災害ボランティアコーディネーター養成講座」に参加されている「ASVN」を取材しました。図上訓練が行われ各地域の地図に避難場所や危険区域など記入していきながら、問題点・長所など確認していきます。自分の地域のことなのによく知らない事を実感しました。代表が言われていた『減災』は日頃の花がけひとつで誰にでも出来ることなのです。



■編集後記

あいかわ町民活動サポートセンターは、この3月で5年目となります。飛行機にたとえるなら離陸して水平飛行の段階にきている感があります。つまりそろそろマンネリ化を迎える時期にきているのかもしれませんが、そこで先月の2月23日には次年度以降にも繋がる企画を打ち出しました。本号で特集いたしました、これからのサポセンは登録団体の横の連携に重点を置いて活動していきます。町民活動の活性化のため、スタッフ・運営委員は今後もとも努力してまいりますので、皆様方のご支援ご協力、よろしくお願い致します。(M・W)